

● 暮らし・人・環境を見つめて

i land fill

ー フェニックス広報誌 ー

CONTENTS

設立25周年特集記事 理事長あいさつ 設立25周年を迎えて
大阪湾フェニックスセンター25年のあゆみ
INFORMATION 世界でも珍しい「海」の埋立処分場 ～神戸沖埋立処分場を見学したJICA研修員の感想～
フェニックス掲示板
大阪湾フェニックスセンターがめざすべき方向性をさぐる
平成18年度決算概要
リレーエッセイ 加古川市長 樽本庄一



Greeting

設立25周年を迎えて

大阪湾広域臨海環境整備センター理事長(兵庫県副知事)

いおろい としひこ
五百蔵 俊彦



大阪湾広域臨海環境整備センターは、平成19年3月をもって設立25周年を迎えることができました。これもひとえに皆様方のご支援とご協力の賜であり、心から感謝を申し

上げます。

当センターは、昭和57年に設立され、平成2年の廃棄物受入開始以来、平成18年度末までに尼崎沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場、神戸沖埋立処分場の3つの処分場において、近畿圏の約75百万トンの廃棄物を埋立処分し、2千万人を超える人々の生活環境の保全に努めてまいりました。現在、平成20年度末の供用開始をめざし、大阪沖埋立処分場の建設を鋭意進めているところです。

廃棄物を取り巻く環境は、この25年間に大きく変化しています。地球規模での環境・資源問題が見直されて、循環型社会の形成に向けた取組みが進められており、廃棄物の減量化、リサイクル化が不可欠となっています。

このような状況を受けて、3Rの推進をはじめ、省エネ、省資源化の進展などにより廃棄物の最終処分量は減少する傾向にありますが、将来に備えて計画的に最終処分場を確保していくことは、避けて通ることのできない重要な課題です。

当センターといたしましても、これまでの実績を踏まえ、引き続き近畿2府4県の廃棄物の長期的かつ安定的な適正処理に寄与するため、役職員一丸となりフェニックス事業の推進に全力で取り組んでまいり所存ですので、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

25 年のあゆみ

大阪湾フェニックスセンター

フェニックスセンター誕生

「大阪湾広域臨海環境整備センター」は、通称「フェニックスセンター」と呼ばれています。このフェニックスという言葉は、センターが設立される前の計画段階から使われており、廃棄物の最終処分場を海面に確保し、廃棄物が土地となってよみがえることから、事業を総称して「フェニックス計画」と呼んでいます。

昭和56年に「広域臨海環境整備センター法」が制定され、昭和57年3月には近畿2府4県159市町村と4港湾管理者が出資して、大阪湾広域臨海環境整備センターが設立されました。

センターは、これら出資者の委託を受けて、廃棄物埋立護岸や一般廃棄物等の最終処分場の建設、廃棄物による海面埋立てなどの業務を行っています。また、平成7年1月の阪神・淡路大震災では、災害廃棄物の受入れを震災直後から開始し、280万トンもの処分を行い、迅速な災害復旧に大きく貢献しました。

期待にこたえて

昭和60年12月、フェニックス計画の道しるべである最初的基本計画が認可され、平成2年1月の尼崎沖埋立処分場での廃棄物受入れ開始以来、泉大津沖埋立処分場、神戸沖埋立処分場で廃棄物を受け入れ、現在、4番目の処分場である大阪沖埋立処分場の建設を進めています。

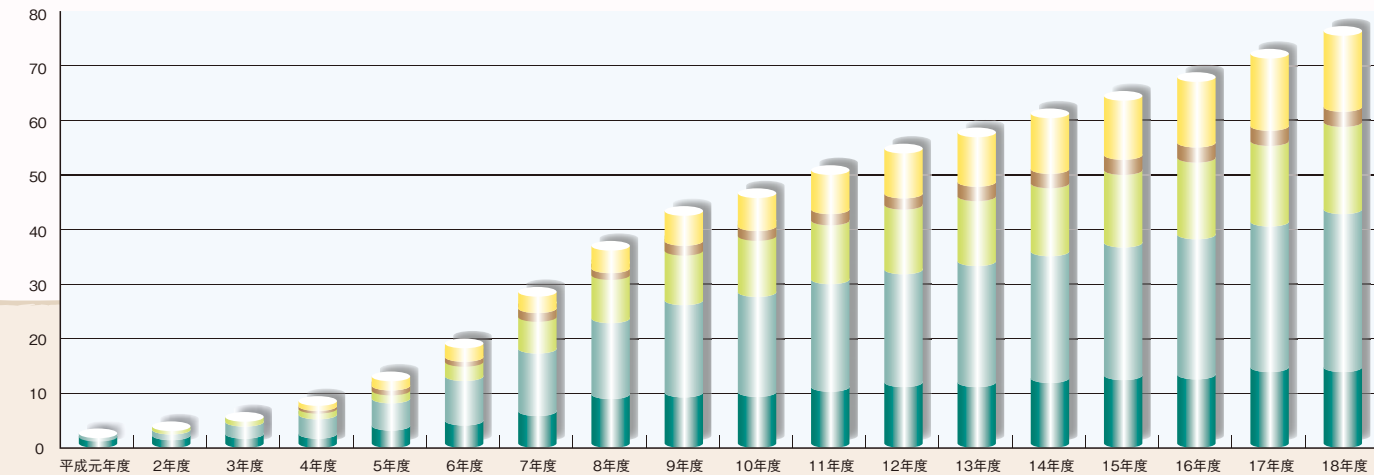
その間、大阪湾をぐるっと取り囲むように、廃棄物を受け入れ処分場に連が「基地」が、尼崎、播磨、津名、大阪、堺、泉大津、神戸、和歌山、姫路と順次建設されました。

尼崎沖埋立処分場で廃棄物の受入れを開始したときの広域処理対象区域は、近畿2府4県の159市町村、全域の約36%だったのが、175市町村、全域の約63%が広域処理対象区域に指定されるなど、大幅に拡大しています。内陸部での最終処分場の確保が一層困難になり、センターに寄せる期待の大きさを表しているといえます。

3Rで美しい未来を

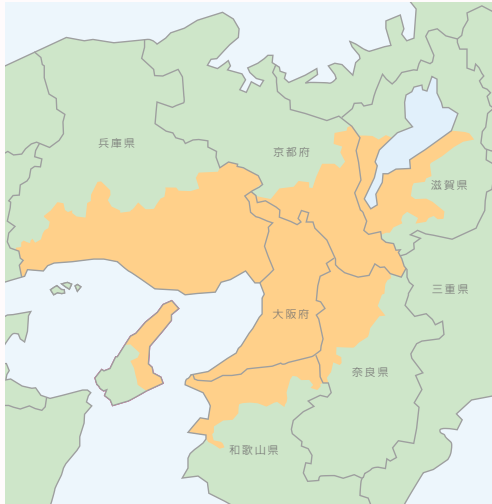
現在的基本計画では、平成33年度まで廃棄物を受け入れることができることになっていますが、社会全体が今後も引き続き廃棄物の発生を少なくし、最終処分量の減量化を進めていくことが必要です。センターとしても、最終処分場が長く使用できるよう3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進などを積極的に進めていくとともに、新しい処分場についても多くの市町村からの要請にこたえることができるよう、検討していかなければならないと考えています。

全処分場廃棄物受入実績(累積)



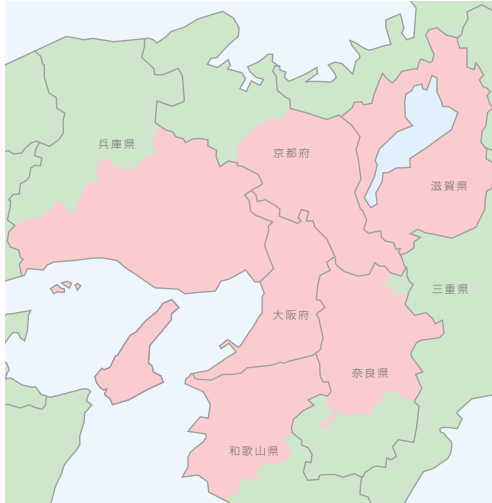
受入対象区域の変化

昭和60年12月基本計画策定時の広域処理対象区域図



昭和60年：市町村数 159 面積 9,744km² 人口 1,763万人

平成18年3月基本計画変更時の広域処理対象区域図



平成19年10月：市町村数 175(昭和60年時の市町村数であらわすと252)
面積 17,150km² 人口 2,011万人

●平成19.3 大阪湾フェニックスセンター設立25周年

●平成19.2 廃棄物受入5千万m³達成

●平成18.7 [大阪湾フェニックス計画シンポジウム]開催

●平成18.3 基本計画変更認可 (受入対象区域・埋立期間を33年度まで延長)

●平成14.3 尼崎沖埋立処分場(管理型)受入終了

●平成14.3 泉大津沖埋立処分場(管理型)受入終了

●平成13.12 神戸沖埋立処分場供用開始 姫路基地廃棄物受入開始

●平成13.11 基本計画変更認可 (受入対象区域・埋立期間)

●平成13.10 大阪沖埋立処分場工事着工

●平成12.3 基本計画変更認可 (大阪沖埋立処分場)

●平成10.11 神戸基地移転(中央区から灘区へ)

●平成10.2 神戸沖埋立処分場工事着工

●平成9.3 基本計画変更認可 (神戸沖埋立処分場)

●平成8.9 和歌山基地廃棄物受入開始

●平成7.1 阪神・淡路大震災の災害廃棄物受入

●平成4.3 堺基地・泉大津基地廃棄物受入開始

●平成4.3 神戸基地廃棄物受入開始

●平成4.1 泉大津沖埋立処分場供用開始 大阪基地廃棄物受入開始

●平成3.1 津名基地廃棄物受入開始

●平成2.7 播磨基地廃棄物受入開始

●平成2.1 尼崎沖埋立処分場供用開始 尼崎基地廃棄物受入開始

●平成元.6 泉大津沖埋立処分場工事着工

●昭和62.11 尼崎沖埋立処分場工事着工

●昭和60.12 大阪湾圏域広域処理場基本計画認可 (尼崎沖・泉大津沖埋立処分場)

●昭和57.8 大阪湾広域処理場整備促進協議会設立

●昭和57.3 大阪湾広域臨海環境整備センター設立 (大阪湾フェニックスセンター)

●昭和56.6 広域臨海環境整備センター法公布

●昭和52.9 「フェニックス」の愛称決定

●昭和52.8 厚生省、広域最終処分場計画発表

●昭和51.8 運輸省、広域廃棄物埋立護岸整備構想発表

大阪沖埋立処分場(建設中)

泉大津沖埋立処分場

神戸沖埋立処分場

尼崎沖埋立処分場

フェニックスの木

世界でも珍しい「海」の埋立処分場 ～神戸沖埋立処分場を見学したJICA研修員の感想～



センターでは、毎年、JICA集団研修の施設見学を受け入れています。今年度も、6月15日にJICA「廃棄物総合管理セミナー」の研修員13名が神戸沖埋立処分場を見学し、7月25日には「環境中の有害汚染物質対策コース」の研修員8名が、泉大津沖埋立処分場を見学しました。

研修員の出身地である開発途上国では、廃棄物の不適正処理に伴う衛生問題や公害問題が発生していますが、慢性的な人材、財源、資材の不足がこれらの問題の解決を難しくしています。また、都市への人口集中や生活様式の変化に伴うごみ質の変化等に

対する技術面、制度面からの廃棄物対策は、いまだ不十分な状況にあります。研修員たちは廃棄物処理に関する技術や制度を総合的に学ぶことにより、自国の環境を改善していくことを目的として研修に参加しています。

その研修の一環として、センターの埋立処分場を見学した研修員たちからは、毎回感嘆の声が多く寄せられています。

今回は、神戸沖埋立処分場を見学した研修員から寄せられた感想の一部を紹介します。

海に埋立処分場とは。
このような珍しい施設を初めて見
学し、大変感銘を受けました。
パキスタン シャーさん



海に埋立地をつくることは不可能
ではないと実感しました。この素
晴らしい知識をメキシコに持って
帰ります。
メキシコ セルジオさん



自国では想像もできない高度な
技術のプロジェクトです。見学で
きたことに感謝しています。
バングラデシュ タウヒドさん



埋立処分場の運営方法に感動!
学習できて非常に有意義でした。
マーシャル諸島 ジェリーさん



貴重な体験でした。
海上を埋め立てるのは、土地不足
を解消するのにとてもいいアイ
デアだと思います。
エルサルバドル エヴリンさん



日本には、リーダーとして国境を
越えた技術の移転を、推進してい
ただきたいです。
スリランカ ダーサナさん



海岸の干拓は小国にとっての解決
策になるでしょう!
コスタリカ カルロスさん



海の埋立処分場は初めて見ました。
見学に協力して下さった職員の皆
さんに感謝します。
シリア スアドさん



フェニックス
掲示板

●広報用DVDを先着50名様にさしあげます

当センターの広報用DVDには、1枚の中に小学生にもわかりやすい「アニメ編」と、やや専門的な「一般編」が入っています。

家庭から出されたごみが最終処分されるまでのことがよくわかります。

ご希望の方は、ハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、性別をご記入の上、当センター総務課DVDプレゼント係までお送りください。



～新たな海面埋立処分場計画の方向性に関する第1回懇談会～

大阪湾フェニックスセンターがめざすべき方向性をさぐる



9月21日(金)に「新たな海面埋立処分場計画の方向性に関する第1回懇談会」を開催しました。

この懇談会は、『大阪湾における海域環境の現状と環境再生・環境創造の取組み』、『大阪湾ベイエリアの開発構想と広域行政への取組み』、『廃棄物の減量化や処分場の延命化等への取組み』等を踏まえて、今後のフェニックス事業及び処分場のあるべき姿について議論するものです。

大阪湾フェニックス計画は、平成2年に廃棄物の受入れを開始して以来、平成18年度末までに尼崎沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場、神戸沖埋立処分場の3つの処分場で約75百万トンの廃棄物を埋立処分し、現在4つ目の大阪沖埋立処分場の建設を進めています。

現在、事業を実施している4つの埋立処分場は、平成33年度に受入れを終了する計画となっており、平成34年度以降の新たな埋立処分場の計画はありません。また、既存の埋立処分場は、計画されて

から廃棄物の受入れを開始するまでに10年程度の期間を要しているため、今後も計画的かつ安定的に廃棄物を処理するためには、次期処分場の整備に向けた計画を検討する時期にさしかかっています。

さらに、大阪湾フェニックス計画が開始された当時と比較して、3Rの推進による最終処分量の減量化や大阪湾再生への取組みの進展、港湾整備への要請や土地需要の変化など、大阪湾フェニックス計画を取り巻く環境や社会経済情勢が変化しており、フェニックス事業やセンターのあり方についてもそれに対応した新たな方向性が求められています。

このため、学識経験者からなる「新たな海面埋立処分場計画の方向性に関する懇談会」を設置し、中長期的な視点を踏まえて、今後のフェニックス事業及び処分場のあるべき姿の議論を通じて、次期処分場計画の方向性やセンターがめざすべき方向性について今年度中を目途に整理していきます。

平成18年度決算概要

平成18年度の事業損益は、44億35百万円の利益で前年度より29億6百万円増益となっています。これは、管理を要する陸上残土や管理型産業廃棄物の搬入量が大幅に増加したことにより廃棄物処理料が増加していることと、事業費用については、廃棄物の搬入量の増加に伴う費用の増加があるものの、修繕費の減少などにより廃棄物処理費が減少したためです。

事業外・特別損益については、35億83百万円の損失を計上しています。損失額は昨年度より32億8百万円増加しておりますが、これは、事業外費用の維持管理積立金の増加などによるものです。この他、基本計画の変更に伴って各団体の搬入予定量の変更に伴い、本年度から各団体の負担調整額を受託事業

収益・費用及び特別損益にそれぞれ計上しております。また、臨時的な修繕費の支出に備えるため、大規模修繕引当金を4億39百万円積み立てたところです。

以上により、事業損益と事業外損益を合わせた当期利益は、対前年比3億2百万円減の8億52百万円となりました。

今後のセンター経営状況は、平成20年度末に大阪沖埋立処分場で受入れを開始すると新たな運営経費が大幅に増加するとともに、減量・リサイクルの進展等により廃棄物処理量の減少が見込まれるため、相当厳しくなるものと予想しております。このため、引き続き、より一層の経費削減を図り、センターの安定的な運営に努力してまいります。

■損益計算書(平成17年度・18年度比較)

(単位:百万円)

費 用 の 部			収 益 の 部		
	H18年度	H17年度	H18-H17		
事業損益計算				H18年度 H17年度 H18-H17	
事業費用	23,938	26,704	△2,766	事業収益	28,373 28,233 140
廃棄物処理費	9,657	10,220	△563	廃棄物処理料	16,431 14,489 1,942
受託事業費	11,942	13,744	△1,802	受託事業収益	11,942 13,744 △1,802
一般管理費	2,339	2,740	△401		
事業利益	4,435	1,529	2,906		
事業外・特別損益計算				事業外収益	135 230 △95
事業外費用	4,103	524	3,579	特別利益	406 0 406
特別損失	21	81	△60		
事業外・特別損益	△3,583	△375	△3,208		
当期利益	852	1,154	△302		

※百万円単位での端数処理のため、合計値は必ずしも一致しません。



「次期処分場への期待」

加古川市長 樽本 庄一

兵庫県の中央部に源を発し、瀬戸内海に注ぐ県下最大の河川「加古川」の下流部に位置する加古川市は、播磨灘に面する臨海部と、北部には自然豊かな播磨中部丘陵県立自然公園を抱える、変化に富んだ地勢を有しています。市域は138.51km²、古くは交通の要衝として栄え、明治以降には、肥沃な播磨平野の農業と播磨灘の恵みによる漁業中心から毛織物、肥料を中心とした軽工業のまちへ、さらに昭和40年代の高度経済成長時代には、播磨臨海工業地帯の鉄鋼業を中心とした重工業化が図られ、50年代には大型商業施設の立地が進み、現在(H19.8.1)は人口267,216人を擁する東播磨の中核都市として発展しています。

都市が発展するにつれて、資源やエネルギーの大量消費・大量廃棄を伴い、環境への負荷を増大させてきました。

このような中、本市では、これまでの大量消費・大量廃棄から地域の健全な循環型社会を築き、環境負荷の少ない社会への転換を図り、資源の有効利用を進めるため5R運動[リフューズ(断る)、リデュース(発生抑制)、リユース(再利用)、リペア(修理して使用する)、リサイクル(再資源化)]を推進するなど市民、事業者、行政が一体となったごみ減量化の取り組みを進めて来ました。また、市民の快適な生活環境維持のため、平成15年3月に稼動した新クリーンセンター(ごみ処理施設)やリサイクルセンター(不燃物・粗大ごみ処理施設)でごみを処理し、平成18年度におけるごみ焼却処理量は93,239t、不燃物・粗大ごみ処理量は6,905tとなり、両施設から発生する焼却灰及び不燃物の全量12,806tを、大阪湾フェニックスセンターに処分を委託しています。

このように、本市が安定して廃棄物処理行政を推進できる背景には、自前の最終処分場の確保とともに、大阪湾フェニックスセンターⅡ期計画に掲げられる神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場の供用期間が、最終処分量の減量に伴い平成33年に延長されたことにあります。本市を含め、大阪湾フェニックス計画に参加する自治体にとって、当面の処分場が確保でき、今後も引き続き安定した処分を

可能とするものです。

しかし、平成33年以降の最終処分場の確保は、本市を含め多くの市町村では内陸部・臨海部を問わず、用地選定の段階から非常に困難が予測されます。今後、我が国は少子化が進み人口減少社会に進んでいきますが、人が住み生活を営む限り、ごみは必ず発生します。

昭和56年広域臨海環境整備センター法が制定され、進められている大阪湾フェニックス計画は、全国でも類をみない画期的な計画であります。

大阪湾フェニックス計画は、大阪湾圏域の多くの行政関係団体が一致協力して実現した計画であり、陸域から発生するごみを海を埋め有効な土地利用を図る、まさしくフェニックスと呼ぶにふさわしい事業です。

これからも快適な都市環境の維持、環境汚染の未然防止に寄与するためにも、廃棄物を広域的かつ長期的、安定的に適正処理するための最終処分場の確保を、大阪湾フェニックスセンターに期待するものです。



加古川市新クリーンセンター

編集後記

今回の第8号は、センター設立25周年の特集号として、センターの廃棄物受入区域が拡大してきたことがわかる図や、あゆみの年表を載せ、皆さまにセンターの事業を一層ご理解いただけるような内容としました。また、JICA研修員の感想記事では、海外の方が埋立処分場を見学してどんなふうに感じたかがわかっていただけたかと思ひます。

センターでは、ホームページをより見やすいデザインに変更したり、各府県で行われているイベントに参加するなど、皆さまにセンター事業をより身近に感じていただけるような取り組みも行っています。

設立25周年を機に、あらためてセンター設立の原点に思いを馳せ、全力でセンター事業に取り組んでまいりたいと思っております。

これからも、皆さまのより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

ご意見やご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。

(編集スタッフ一同)

i land fill Vol. 8

発行:  大阪湾広域臨海環境整備センター
(大阪湾フェニックスセンター)
<http://www.osakawan-center.or.jp/>

〒530-0005 大阪市北区中之島2-2-2 ニチメンビルディング9階

T E L 06-6204-1721(代)

F A X 06-6204-1728

E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp

i Land fill は当センターホームページにも掲載しております。



古紙リサイクル配合率100%内生産品を使用



この印刷物は大豆インキを使用しています。

2007.10